

# FDニュースレター

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称で、本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を中心に実施しています。

今回は、2019年度活動計画等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2020年度1号 (No.8)

## ■ 2020年度活動計画

### ▶ FD講演会（※組織的なFDとするために、各種委員会と協働して開催）

☆大学教育学会 大会（6月）及び課題研究集会（12月）への参加者募集を今年度も行うこととし、報告も、例年通り行う予定です。それぞれの案内が届きましたら、参加者を募集します。

### ▶ 各種会議等におけるFD活動の報告

☆現在、教員間で実施されている、教育改革に関するプロジェクト・基礎ゼミ・語学会議・学科会議等のFD活動について、報告をご提出いただいています。

### ▶ 公開授業

☆昨年に引き続き、公開授業を実施する予定です。

同じ科目等を担当する教員間で、授業参観のあと、授業経営手法や評価方法の擦り合わせなどを実施します。

### ▶ 学生による授業アンケート（Web形式）

☆今年度も各セメスターの期末頃に実施予定です。

学生による授業アンケートの科目毎の選択質問項目の集計結果（詳細）は、『学生による授業アンケート結果』（冊子）として、図書館で閲覧することができます。

## ■ 学生による授業アンケートの実施方法が変わりました

### ▶ 学生による授業アンケート実施方法の変更について

2019年度には、学生の負担を鑑み、アンケート項目の絞り込みにより質問項目数を減らし、学生自身の学習の振り返りと授業改善に向けての率直な意見を自由記述に記入できるよう、アンケート項目を変更しました。

今年度は、従来のマークシート用紙による授業アンケートの実施方法を見直し、授業時間内にパソコンやスマートフォンを利用したインターネットによる授業アンケートを実施することとしました。

インターネットによる授業アンケートでは…

インターネットを利用した授業アンケートにより、データ管理者（事務職）のみが入力者を特定できる仕様の下で、責任意識を持った記入をしてもらえると共に、アンケート集計結果を速やかに分析し、担当教員にフィードバックすることが可能になりました。

## ■ 全学教員協議会開催報告

➤2020年5月30日（土） 全学教員協議会が開催されました（Webexを利用したオンライン開催）

当日は、教員62名・事務職員10名が参加しました。

基調報告 「2030プランに教学的展開を重ねて」  
二松学舎大学 学長 江藤 茂博

FD講演 「授業設計と成績評価ガイドラインについて」  
横浜国立大学 准教授 安野 舞子氏

FD報告会 「IRと授業改善の関係を中心に」  
文学部 教授 五月女 肇志

「本学におけるハラスメント防止の取り組みについて」  
二松学舎大学 ハラスメント防止委員会委員長 文学部 教授 改田 明子

「学生による授業アンケートの分析結果」・「科学研究費助成事業（科研費）について」  
大学改革推進部・IR推進室

【FD講演会を終えて】

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要と叫ばれる中、①大学が目指している方向性、②学修目標の具体化へ向けた取り組み、③学修成果・教育成果の把握・可視化の重要性などについて、改めて確認する良い機会となりました。

## ■ 授業担当教員によるコメント

2016年度から、学生による授業アンケート結果の組織的活用の一環として、授業担当教員からアンケートを踏まえた自己省察に資するコメントシートの提出をお願いしています。授業における様々な工夫や、学生理解のための努力など、授業改善へ向けた具体的な方法が示されているコメントシートの一部をご紹介します。

定期試験の準備がしやすいプリント作りに心掛け、秋 semester の成績評価を通してその成果を認めることができた。今後とも、この試みを継続して、定期試験前の準備のみに限らず、事前事後の学習に結び付くようなプリント作りの工夫をしていきたい。

担当する全科目でリアクションペーパーなどを通じて、学生個々の理解度と関心・質問を把握し、次の講義開始時に一定時間をとり、全体向けにフィードバックを行うことで、理解度のバラツキの解消を目指したい。

演習で、すべての学生に担当発表の前に昼休みを使って事前指導をした結果、『授業時間外の学習時間』が学部平均の2倍になり、またその結果、『自分で調べ考える姿勢』が学部平均を上回ったのは、演習においては事前指導が有効であったという一定の手応えを感じた。

小テストの集計結果・提出物・課題の提出状況による『中間成績の配布』をすることで、普段から努力する学生については、納得の成績が出ていて本人の自信と励みになり、努力不足がうかがえる学生については改め考えるきっかけとなった。学習への姿勢が変わり、クラス全体としての小テストの平均点アップ、課題の未提出が減るなどの効果が見られた。

コメントシートにご協力いただき、ありがとうございました！

【執筆責任】 自己点検・評価実施委員会

2020年7月31日発行

【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課 TEL: (03)3261-1285

FAX: (03)3261-7413

E-mail: gakumu@nishogakusha-u.ac.jp